

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 高橋栄作	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>1) 研究</p> <p>「特別研究助成金」を受けて「言語獲得・習得時における初期制約序列」について研究を行った。研究の概要は次の通り。母語獲得中の子供の発話の多くは、大人のそれとは大きく異なり誤りを含む。その誤りは、子供の身体的未熟さなどから起こる調音法による誤りであるとされてきた。しかし、最適性理論ではそれは誤りではなく、「有標性と無標性」という制約の相互作用からそれを説明した。本研究では、最適性理論が主張する言語獲得の初期段階における制約序列について実験的手法を用いて考察し、日本人の子供の言語観察と保護者の言語観察を通して、子供の発話の誤りに影響を及ぼしている点を考察した。本研究の成果を「母語獲得時の養育者発話の影響」というタイトルで日本比較文化学会東北支部大会にて発表した。</p> <p>また、ICT を効果的に使った実践的な語学教育について、他の研究者と連携して研究をおこなった。</p> <p>実践報告：関口智子・高橋栄作、「英語コミュニケーションを実践する意欲を育てる試み」、『地域政策研究』第 17 巻第 1 号、高崎経済大学地域政策学会、pp. 117-132</p> <p>2) 教育</p> <p>グローバル化に対応できる英語プレゼンテーション能力の養成と、ICT を授業で使用し、世界中の Web サイトを開いて新たな知識・情報・体験へのアクセスができるように学習者の <b>facilitator</b> としてつとめ、課題の発見・解釈に向けて学習者が主体的・協動的にアクティブ・ラーニングが行えるように授業実践した。また、学生に学んだことを表現する機会を与えるため(英語会話) <b>English Café</b> の企画・運営を行った。大学職員の英語力向上のために職員向けの <b>English Café</b> の企画・運営も同時に行った。さらに、夏期休暇中に開講された <b>TOEIC</b> スコアアップ講座では、<b>TOEIC</b> のスコアアップにつながる解法のテクニックを学生が効率的に学べるように、企画・運営に従事した。その他では、英語カリキュラムの検討と <b>Internet English</b> の教科書の改訂を行った。</p> <p>3) 学生指導</p> <p>教育活動の一環として、部活動に携わり、陸上競技部監督として学生指導に当たった。主な指導結果は次の通り。第 93 回関東学生陸上競技対校選手権大会男子二部ハンマー投げ 7 位入賞、砲丸投、棒高跳、800m、ハーフマラソンに出場した。第 29 回国公立 24 大学対校陸上競技大会では 800m、ハンマー投げで 2 位の成績をあげ、また、複数種目で入賞し、対校男子 16 位、女子 17 位という成績をあげた。4 年連続して第 91 回箱根駅伝予選会出場を果たした。また、第 65 回北関東五大学対校陸上競技会を主管校として担当した。さらに、地域貢献、陸上競技人口の底辺拡大を目指すために、第 7 回高崎経済大学競技会を開催し、学生の大会運営能力の向上に寄与し、学生が大会準備の活動を通して社会性を育む一助となった。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>財団法人 群馬陸上競技協会理事、高崎市陸上競技協会理事として大会運営などに従事した。CHIeru Magazine 2014 Autumn Winter の取材を受け「『CaLabo EX』と『ABLish』を活用した、地域リーダーの育成とアクティブラーニング」というタイトルで記事が掲載された。</p>	

地域政策学部のFDにて「地域政策学部における英語 e-Learning 教育の活用と実践について」発表を行った。

### 3 次年度以降の計画・抱負

研究については、認知神経科学的アプローチによりICTを使った語学教育の有効性、また、言語獲得と言語習得のメカニズム解明を考察したい。教育については、学生の「学修力」を強化できるように教育を行いたい。